

補助事業番号 24-2-147

補助事業名 平成24年度 福祉事業を行っている法人格を有さない団体に対して支援を行う補助事業

補助事業者名 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

心身障害児とその家族を対象として総合的に療育相談を行い、障害児ごとに適切な療育相談を行うとともに、全国各地域の父母団体と協力し合い、障害児のための各種の福祉活動を実施し、もって社会福祉の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア. (福) 全国心身障害児福祉財団が行う事業

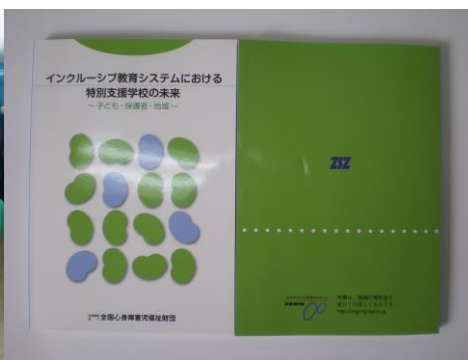
(ア) 障害児及び家族に対する療育相談の実施

本財団療育相談センターに来所した障害児とその家族に対して、医師及び専門家による診断助言を行い、適切な療育指針を提供した。また、療育指導の手引き書を3,000部作成し障害児の環境改善を整えるため特別支援学校・障害児関係施設等へ広く配布した。

療育相談



療育指導書



(イ) 障害児及び家族に対する治療訓練

(i) 障害児及び家族に対するグループ治療訓練

障害児を発達状況に応じて数人ずつのグループに分け、それぞれのグループに対して治療訓練プログラムを実施した。また、母親に対しても同時並行してカウンセリングを行った。



(ii) 障害児及び家族に対する個別治療

特に心理及び言語の面で問題をかかえる障害児に対して、それぞれ個別の治療訓練を行った。



(ウ) 障害児・者父母団体地域指導者養成研修

地域レベルでの障害児(者)父母団体の連携を図るためのリーダーの養成研修と競輪への理解を深めるための競輪講座を全国6会場で1泊2日の日程で開催した。

(参加者合計114名)

- | | |
|------------|--------------------------------|
| 7月27日～28日 | 愛知県一宮市(一宮競輪場・一宮駅前クラシックホテル)22名 |
| 8月31日～9月1日 | 福井県福井市(福井競輪場・ホテルフジタ福井)22名 |
| 11月9日～10日 | 長崎県佐世保市(佐世保競輪場・セントラルホテル佐世保)23名 |
| 2月15日～16日 | 山口県防府市(防府競輪場・アパホテル山口防府)24名 |
| 3月8日～9日 | 徳島県小松島市(小松島競輪場・徳島東急イン)23名 |

競輪講座

リーダー養成研修



(エ) 発達障害幼児に対する早期支援事業

発達障害幼児の早期発見・支援を行うため、専門家チームによる訪問支援活動を実施するとともに、保育士・教諭に対して専門性向上のための研修会を3地域(兵庫県・大分県・徳島県)で実施するとともに発達障害に関わる情報誌を作成し、関係機関に配布した。また、指定した幼稚園・保育所及びその周辺の幼稚園・保育所等の園児・保護者を対象として、スクリーン映像をまじえた読み聞かせコンサート「子育て支援フェスタ」を開催した。

園内研修会



訪問支援活動



イ. 全国難聴児を持つ親の会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

難聴児及び家族に対して、さまざまな情報や伝達を目的とした会報(4,500部)を4回発行して配布した。



(イ) 心身障害児対策の無料検診

全国の難聴児の家族のための療育相談活動を実施した。

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある難聴児及び家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを3回実施した。(参加者合計 136名)

一泊二日

1月2日～3日 八海スキーロッジ(新潟県南魚沼市)参加者31名

1月26日～27日 新樺川観光ホテル(香川県高松市)参加者64名

2月23日～24日 琴引フォレストパークスキー場(島根県飯石郡)参加者41名



1月26日～27日 香川県高松市

2月23日～24日 島根県飯石郡

(エ) 被災者のためのキャンプ事業

大震災という大変な経験をし、ストレスを抱えながらも頑張っている親子に対して東京という被災地(岩手・宮城・福島)とは別の環境で楽しい活動を行うとともに難聴児教育に関わる専門家による指導によって集団生活の経験や社会性の向上を図る。保護者は今回の経験を互いに話し合う場を設けるため一泊二日のキャンプを1回実施した。(参加者 52名)



(オ) 難聴児の親のための研修会

難聴児を持つ親に対し難聴児教育に関わる専門家及び成人した難聴者本人などにより講演を行い、聴覚障害のさまざまな知識を得る研修会を4回実施した。(参加者合計 76名)

8月3日 高知ろう学校(高知県高知市)20名

- 8月26日 熊本市立図書館ホール(熊本県熊本市)32名
- 11月17日 京都アスニー(京都府京都市)21名
- 1月27日 西宮市総合福祉センター(兵庫県西宮市)24名

ウ. 全国聾学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

ろうあ児とその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌(11,000部)を1種類、さまざまな情報や伝達を目的とした会報(11,000部)を3回発行して配布した。

指導誌

会報



(イ) 心身障害児対策の無料検診

ろうあ児とその家族に対する療育指導を積極的に奨めるために治療教育相談を5回実施した。(参加者合計457名)

- 6月21日 豊の国健康ランド(大分県大分市)参加者80名
- 7月6日 岩沼屋(宮城県仙台市)参加者162名
- 10月18日 ラ・ヴィータ高知店(高知県高知市)参加者68名
- 11月6日 兵庫県立神戸聴覚特別支援学校(兵庫県神戸市)参加者110名
- 1月25日 愛知県産業労働センター(愛知県名古屋市)参加者37名



(ウ) 聴覚障害生徒スポーツ振興事業

ろうあ児の体力向上を通して意欲的な人間を育てるために、陸上競技大会と卓球大会を陸上競技大会10月5日～7日大阪市長居陸上競技場(大阪府大阪市)、卓球大会11月16日～18日新潟市東総合スポーツセンター(新潟県新潟市)の日程で実施した。

陸上競技大会

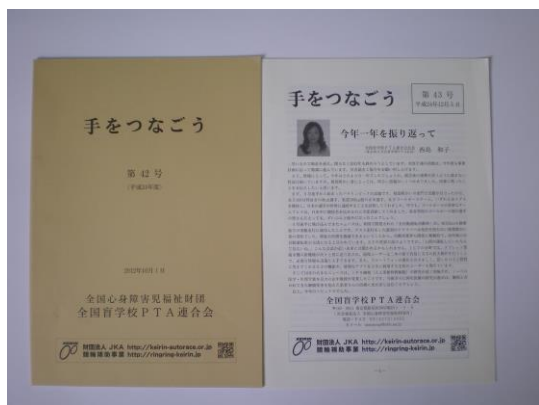
卓球大会



エ. 全国盲学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

盲学校へ通う盲児とその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌2冊(4,450部)を発行して配布した。



(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある盲学校へ通う盲児とその家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプ実施した。

7月21日～22日 栃木県障害者保養センター(栃木県那珂郡)参加者21名



(ウ) 視覚障害生徒スポーツ振興

盲児の体力向上を通して意欲的な人間を育てるために、野球大会を開催した。
8月22日～24日 久宝寺緑地公園陸上競技場(大阪府八尾市)参加者120名



オ. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

病弱虚弱児とその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌(4,500部)を発行して配布した。



(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある病弱虚弱児とその家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを4回実施した。(参加者合計 248名)

8月4日～5日 伊予ロッチ(山梨県北杜市)参加者45名

8月21日～22日 ホテルボンセジュール(愛知県蒲郡市)参加者40名

8月21日～22日 三浦ふれあいの村(神奈川県三浦市)参加者36名

10月13日～14日 自然学習村源じいの森(福岡県田川郡)

(ウ) 社会復帰のための社会適応講座の開催

学校卒業を目前にした病弱虚弱児に対して社会適応のための実践的な指導講座を6回実施した。(参加者合計 264名)

8月1日 プロムナードとばた他(福岡県北九州市)参加者12名

3月10日 神奈川県立こども医療センター(神奈川県横浜市)参加者146名

3月16日 ホテルポートプラザちば他(千葉県千葉市)参加者24名

3月26日 久留米特別支援学校他(東京東久留米市)参加者11名

3月28日 静岡県天竜特別支援学校(静岡県浜松市)参加者25名

3月30日 成田ゆめ牧場(千葉県成田市)参加者46名

カ. 全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

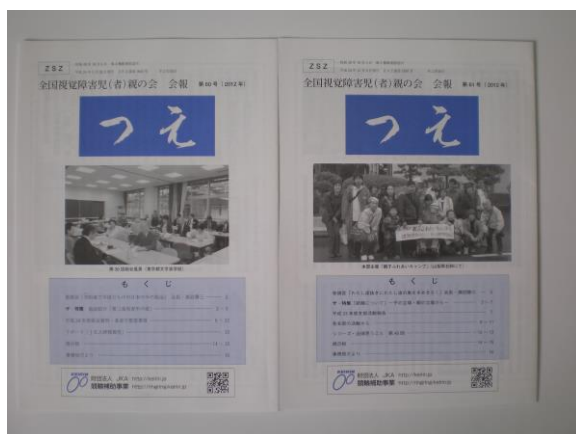
養護学校に通う知的障害児とその家族に対してさまざまな情報や伝達を目的とした会報(29,000部)を2回発行して配布した。



キ. 全国視覚障害児(者)親の会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

視覚障害児とその家族に対してさまざまな情報や伝達を目的とした会報(2,000部)を2回発行して配布した。



ク. 全国肢体不自由養護学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

養護学校に通う肢体不自由児とその家族に対してさまざまな情報や伝達を目的とした会報(8,000部)を1回発行して配布した。



2. 予想される事業実施効果

ア. (福) 全国心身障害児福祉財団が行う事業

(ア) 障害児及び家族に対する療育相談の実施

本財団療育相談センターの受診で得た知識と自信によって、今後の家庭での生活に向けて大きな支えとなっていくことが期待される。また、療育指導書を発行することで、障害児療育についての関係者に対する知識の向上に役立と予想される。

(イ) 障害児及び家族に対する治療訓練

グループ治療に関しては、個々の認知発達や特性に合わせた一対一の指導に加え、発達段階をそろえた小集団を組むことで、発達段階に応じた社会性の課題にも焦点を当てることが出来た。それにより周りを見て行動する子ども同士のやりとり、応援するなどの芽生えが見られ変化してきている。親に対しては親同士間での情報を知り困りごとの共有など有意義な場になっている。個別治療に関しては個別の配慮が必要な子ども、小集団で学ぶことがまだ難しい子どもなどに対して、発達段階と特性に応じた対応をすることで認知発達を伸ばし、或いは広げていくことが出来た。個別治療を終えグループ治療に移行する子どもも出ている。

(ウ) 障害児(者)父母団体地域指導者養成研修

競輪補助金の知識や認識を深めた事で今後行われる補助事業に関しても再認識して事業実行するものと思われる。また、普段はあまり交流の無い団体同士が、互いの意見を交換しあう事でお互いを理解することができたと予想される。

(エ) 発達障害幼児に対する早期支援

園内研修会では、発達障害児の特性を学ぶことで、発達障害児や配慮が必要な子どもの行動の共通理解と一貫性のある支援へと結びつくことが期待される。

訪問支援活動では、園内での保育場面において子どもの様子を観察し、その場において指導・支援の具体的な方法をモデル提示することによって、子どもの特性に応じたより望ましい具体的な関わりへの気づきと実践に結びつくことが期待される。

子育て支援情報誌を配布することにより、これからの子育てに対する実践教育に結びつくことが期待される。

子育て支援フェスタを開催する事によって親子のふれあいを深めたとともに、子ども達の情操教育に役立つと期待される。

イ. 全国難聴児を持つ親の会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

難聴児及び家族にとって、療育技術の解説やさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

難聴児及びその家族が、最新の療育水準を獲得したことで、社会参加への明るい希望と自信を持つことが予想される。

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

将来への生きる指針を獲得することで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

(エ) 被災者のためのキャンプ事業

被災地（岩手・宮城・福島）の環境とは違う生活環境の中で、今後の復興生活への希望と自信を持つことが予想される。今後は、被災地ではない子供たちとのふれあいを企画する話題も出ておりこれからの事業の発展が期待される。

(オ) 難聴児の親のための研修会

日頃、一生懸命難聴児のために情報を習得している母親ではなく、父親の参加を呼び掛けた結果、今迄あまり関心がなかったことに興味を抱いていただき、これから難聴児の成長に大きな変化が現れると期待される。

ウ. 全国聾学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

ろうあ児とその家族が療育技術の解説やさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

ろうあ児とその家族に最新の治療教育水準を獲得したことで、社会参加への明るい希望と自信を持つことが予想される。

(ウ) 聴覚障害生徒スポーツ振興事業

ろうあ児の体力向上を通して意欲的な人間形成に寄与することで、ろうあ児の社会参加の可能性を拡大していくことが予想される。

エ. 全国盲学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

盲学校へ通う盲児とその家族が療育技術の解説やさまざまな情報を自分のものと

して生かしていくことが予想される。

(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

将来への生きる指針を獲得させることで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

(ウ) 視覚障害生徒スポーツ振興

盲児の体力向上を通して意欲的な人間形成に寄与することで、盲児の社会参加の可能性を拡大していくことが予想される。

オ. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

病弱虚弱児とその家族が療育技術やさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

将来への生きる指針を獲得させることで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

(ウ) 社会復帰のための社会適応講座の開催

実践的な意欲と技術を獲得することで、社会参加への自覚と責任を持って意欲的な人生を歩んでいくことが予想される。

カ. 全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

特別支援学校知的障害教育校に通う知的障害児とその家族がさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

キ. 全国視覚障害児（者）親の会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

視覚障害児とその家族がさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

ク. 全国肢体不自由養護学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

肢体不自由特別支援学校に通う肢体不自由児とその家族がさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

3. 本事業により作成した印刷物等

ア. (福) 全国心身障害児福祉財団

インクルーシブ教育システムにおける特別支援学校の未来 B5判 231頁 3,000部

子育て支援情報誌No.4 A4判 20頁 4,000部

子育て支援情報誌No.5 A4判 20頁 4,000部

子育て支援情報誌No.6 A4判 20頁 4,000部

イ. 全国難聴児を持つ親の会

べるNo.157 B5判 28頁 4,500部
べるNo.158 B5判 36頁 4,500部
べるNo.159 B5判 28頁 4,500部
べるNo.160 B5判 32頁 4,500部

ウ. 全国聾学校PTA連合会

会報No.213 B5判 10頁 11,000部
会報No.214 B5判 10頁 11,000部
会報No.215 B5判 10頁 11,000部
道標No.39 B5判 80頁 11,000部
全国聾学校陸上競技大会要綱 A4判 113頁 1,000部
全国聾学校陸上競技大会ポスター A2判 300枚
全国聾学校卓球大会要綱 A4判 42頁 700部
全国聾学校卓球大会ポスター B2判 300枚

エ. 全国盲学校PTA連合会

手をつなごうNo.42 A4判 26頁 4,450部
手をつなごうNo.43 A4判 8頁 4,450部
全国盲学校野球大会要綱 A4判 56頁 700部
全国盲学校野球大会ポスター A1判 350枚

オ. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

会報No.34 A4判 24頁 4,500部

カ. 全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会

会報No.77 A4判 16頁 29,000部
会報No.78 A4判 16頁 29,000部

キ. 全国視覚障害児(者)親の会

会報「つえ」No.60 B5判 16頁 2,000部
会報「つえ」No.61 B5判 24頁 2,000部

ク. 全国肢体不自由養護学校PTA連合会

会報No.107 A4判 125頁 8,000部

4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団(ゼンコクシンシンショウガイジフクシザイダン)

住 所 162-0051
東京都新宿区西早稲田 2 - 2 - 8
代表者名 理事長 伍藤 忠春(ゴトウ タダハル)
担当部署 業務部(ギョウムブ)
担当者名 企画調査係長 町野 忠史(マチノ タダシ)
電話番号 03-3203-1284
FAX 番号 03-3208-1337
E-mail gyoumubu@shougaiji-zaidan.or.jp
URL <http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/>